



図書館に関する本



図書館に児童室ができた日～アン・キャロル・ムーアものがたり～【徳間書店】

(作)ジャン・ピンボロー (絵)デビー・アトウェル (訳)張替恵子

19世紀末アメリカ、職業婦人が珍しかった頃、子どもは図書館に入れなかった時代。児童図書館サービスの先駆者アンは、自分の考えをしっかりと持った女の子でした。アンが亡くなって50年。本を読む権利が認められる為には、様々な努力があったのです。

みさきめぐりのとしょかんバス【岩崎書店】

(作)松永伊知子 (絵)梅田俊作

ここは北海道の根室半島。ノサップみさきをめぐらしてとしょかんバスがはしります。ちいさな小学校の子どもたちやいつものおばあさんがまっています。



ほんをよむのにいいばしょは？【新日本出版社】

(文)シュテファン・ゲンメル

(絵)マリー・ジョゼ・サクレ (訳)斉藤規

静かに本を読める場所はないの？騒がしい弟たちやうるさい料理の音から逃れて家を出た、こねずみニリィ。でも、森にも落ち着ける場所はありません。

困ったニリィが思いついたのは“場所”を作ること……。おはなし会を開くことでした。



ぼくのブックウーマン【さ・え・ら書房】

(作)ヘザー・ヘンソン

(絵)デイビッド・スモール (訳)藤原宏之

1930年代アメリカ。カルの家は高い山の上。字は読めない、けど本好きの妹には、そんな暇があるなら仕事をしろと言いたい。

ところがある日、馬に跨った女の人が一日がかりで登ってきて……。

辺境の地に本を届ける「荷馬図書館員」の仕事。

ママのとしょかん【新日本出版社】

(文)キャリ・ベスト

(絵)ニッキ・デイリー (訳)藤原宏之

元気っぱいの女の子リジーは、ママと一緒に初めてお仕事にでかけます。ママは公立図書館の司書。図書館には様々な人種の人々が仲良く時を過ごしています。

図書館のお仕事がよくわかるお話。



山のとしょかん【文研出版】

(文)肥田美代子 (絵)小泉るみ子

「読み聞かせ」がテーマになっていて、まさに読み聞かせにピッタリな、心温まるお話。

これを読めば本好きな子が増えるかも!?
低学年～中学年向け。